

第1回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日 時：平成 22 年 9 月 3 日（金）15:00～17:00

場 所：日高村社会福祉センター2階ホール

1. 議 事

(1) 全体スケジュール等について

- ・産業振興計画については、知事をトップとする推進本部会議を開催しており、本年度は既に5回開催している。

また、民間有識者、各種団体等の代表者で構成する「産業振興計画フォローアップ委員会」を年3回開催する。同委員会開催前に地域ブロックでは「フォローアップ会議」を開催し、アクションプランの進捗状況の検証や評価、追加・修正等の検討を行っている。

- ・アンテナショップ「まるごと高知」では、県産品の販売、観光情報の発信等を行うとともに、試食会、商談会を通じて、飲食店等への販路対策に取り組む。
- ・産業促進・人材育成関連について、5月以降、各ブロックで取り組み事例発表シンポジウムを開催した。

また、地域産業をリードしていく中核的な人材を養成するため「目指せ 弥太郎商人塾」や、行政、各種団体等の地域産業支援者を対象とした「こうち地域産業振興人材育成塾」を実施している。

(2) 地域アクションプランについて

1) 平成22年度の取り組みの進捗状況について

- ・36項目のアクションプランの内、21年度には総合支援事業費補助金等を導入して事業化したものが10件、アドバイザーを導入し検討を進めているものが6件の動きがある。さらに、10件のうち、4件については、本年度も継続して補助事業を実施・検討している。
- ・産業振興アドバイザーについては、8件の派遣計画があり、完了3件。実施中5件となっている。
- ・本年度から実施しているステップアップ事業では、佐川町での地場産の牛乳を使った商品開発に取り組んでいる。
- ・地域資源活用共有会議では、地域の食観光をテーマに、ご当地カレーの開発の検討を進めている。
- ・広域観光の推進については、仁淀川流域6市町村及びいの町、越知町の観光協会で構成する「仁淀川地域観光協議会」を設置し、本年度11月から広域観光に取り組む。

2) 修正・追加等の案件について

- ・新たに追加した項目 2件
 - No.37 「生姜の加工」
 - No.38 「企業進出による雇用の増」
- ・修正項目
 - ・No.25 「企業進出による雇用の増と地元企業の活性化」のうち、22年度、23年度の木質ペレットの取り組みは、追加項目として取り出したことから、同項目から削除する。
 - ・No.35 「越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進」のうち、22年度、23年度に体験型メニュー(カヌー、ラフティング)の開発等の取り組みを追加修正する。

(3) 産業成長戦略について

1) 平成22度の取り組みの進捗状況について

【意見交換】

○地域アクションプラン

- ・佐川町では、国の事業である「歴史的環境形成総合支援事業」の中で、古い町並みの整備をしている。地域アクションプランの中にも整理されているが、今後は、テーマを少し細分化してアクションプランの内容を分かりやすくしてはどうかと考えている。上町地区では歴史的な風致維持向上計画の事業として取り組んでいるが、この内容を少し掘り下げ、歴史的、体験型、そして文化遺産というものに分割して活用できないかと、収蔵資料の活用についてアクションプランの細分化を考えているので、県の方でもご検討をお願いしたい。

→佐川町の歴史的風致の話は聞いているので、来年度に向けての取り組みについては、来年度予算をにらんでいただいて、具体的に事業として取り上げる方向であれば、年度末にはこのフォローアップ会議を開催するので、その際にアクションプラン項目として取り組みたいと考えている。

- ・(本川キジの販路確保と新たな商品開発)

本川地区においては、キジ、解体・加工はしているが、スモークについては愛媛県でいぶしている。

これを地元でできないものか。そのような施設を建設するというのは一定可能か。

→地域の資源を使って、付加価値をつけるスモークの製品化については当然アクションプランの対象になる。

ただし、投資効果の検討や販路として具体的な売り先などがはっきりしていることが必要で、その場合は施設整備への支援も可能と考えている。

また、検討部会でも検討しており、高知市内の燻製のできる施設で薫製の試しをやる取り組みも進めている。

最終的に高知市でも同じような味でできるようであれば、施設整備もあるが、獣医師等許可を持った人が要るなどの課題もあるので、現在、こうち農商工連携基金事業の3年間事業の中で講習会の受講を計画している。

○産業成長戦略

- ・アンテナショップについて、先ほどの説明では、大体年商3億という説明があったが、300日稼働するとして6億が一つの採算ラインではないか。議会にはどのように説明しているか。

→物販で3億円、飲食で1億円という中で、利益を計算すると3,100万円ぐらい家賃として県に戻していただくことになる。全体の家賃は年間7,800万円だが、物販、飲食のこの目標を達成できれば年間で3,100万円ぐらい県に戻ってくるという収支見通しを議会で説明している。

- ・アンテナショップの全体家賃と県に戻る金額との差は、高知県産品を外へ外商する、要するにリピーターを狙うための費用ということか。

また、人件費も出ているのではないか。

→外商を含め、ランニングコスト的に負担している分が4,700万円あるということになる。人件費について、収益部門である物販とか飲食の部分についての補助金は出していない。先ほどの外商とか商品の磨き上げという部分については補助金9,900万円程度出している。

- ・物販で3億円、飲食で1億円の目標設定の根拠は何か。
- 売り上げの単価、客単価は、銀座あたりのアンテナショップの平均値の1,000円ぐらいを想定しており、年間の来場者を大体100万人、沖縄の半分ぐらいを目標にしている。来場者のうち、大体3分の1ぐらいがレジを通過するという数字も出ているので、これらを参考に積算上3億円としている。

- ・今後の観光振興の方向性だが、龍馬伝の後には長宗我部元親を売り出していくという話を聞いたことがあるが、方向転換をしたのか。
- 龍馬を元親に切り替えるということではなく、ポスト龍馬博推進委員会の中でも、まだ龍馬で3年～5年はいけるとの話も聞いており、せっかく盛り上がったものを消すべきではないということで引き続き龍馬でいく。龍馬を前に出すが、その中身としては長宗我部も含めて紹介していくという形にしたい。

- ・今度上映される「君が踊る、夏」には、仁淀川のきれいさが入っている。これをアンテナショップの中で何か触れるということは難しいものか。映画とマッチした形の観光という点で、沈下橋や仁淀川の風景を活かした何か取り組みができないか。
- ポスター、チラシについては掲示しているが、関連して地域の紹介などをやってみても良いと思っている。また、東京事務所を通じて東映とも話をしており、「君が踊る、夏」の公開に合わせたイベント等について検討したいと思っている。さらに、日本航空高知支店の支店長さんのご努力下、JALの国際線の機内上映が10月・11月決定している。邦画が国際線で放映されるのは非常に珍しい。北海道や「アイリス」による秋田など、映画をきっかけに外国人観光客が訪れるという現象が起こっているなど、県としても非常に期待している。

- ・「ポスト龍馬博」の関連で、ジョン万次郎をぜひ売り出していきたい。龍馬は残念ながら土佐市に足跡がないのでなかなか難しいが、ジョン万次郎は関連があるので、このような歴史上の人物を幅広くクローズアップしていただきたい。
- 先ほど説明した駅前の施設は、まだ構想段階であり、詳細はもっと詰める必要があるが、坂本龍馬はもちろん、残っている写真とか、写真のない方は絵とかを出していきたい。その中でジョン万次郎も当然欠かせないだろうと思う。宇佐から出港したというような事実もあり、これらを紹介することで土佐市宇佐の方へ誘うといったそんな取り組みにしたいと考えている。